

聖カタリナ女子短大 白石方子 田中ツネ子

目的 ゆかたを縫製する場合、既製品としての流れ作業もあるが、ほとんど家庭裁縫として、1人が仕上げるものが多い。

和服裁縫の技術検定にも関連をもち、協力裁縫もお互いの立場から早く、注意し合つて仕上げる事が、できる点もあつて1人は、左身頃、1人は、右身頃を縫製し、衤つけをまとめとして完成させるように実験してみた。

方法 1. 既製品売場のゆかたの縫製法の調査。

2. 専門裁縫士の縫製法の検討。

3. ゆかた地についての柄合わせ、表、うらのしるしつけの方法。

4. 縫製法との相関関係をみながらの比較。

5. 開きについての対応を考慮し、基礎技術を正しく行つているかどうか。

結果 協力裁縫の方法を検討した実験結果として、左右、違う2人が縫つても、差はあまり目立たない。2者が協力する為には、最初の打ち合わせが、重要な点になつてくる。

基礎技術を自分のものとしておくことの必要さを通感した。

今回は、第1回の実施で、第2回をくり返したときどんな展開をみるかが楽しみである  
今後続きたい。